

平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立

駒場小学校

学級数

14

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

かしこく：進んで学び、自分で考え、正しい判断で行動する

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

1 取組のきっかけ

- ・昨年度の学校評価や全国学力調査等の結果から、これまで重点教育目標としてきた「かしこく」を今年度も継続し、確かな学力の向上に力を入れて取り組んでいく必要があると考えた。また、学力向上を支える指導と環境の充実を図るため、異校種間および家庭・地域との連携をより一層強化し、つながりを重視した取組にも留意しなければならないものと考えている。

2 取組の位置付け

- ・教務部が中心となって今年度の方向性を示しながら全体で共通理解を図り、取組を進めてきている。

3 取組の方法

- ・朝学習の時間を確保し、繰り返しの学習を継続的に取り組んでいる。
- ・TTによる習熟度別指導を計画的・組織的に取り組み、一人一人の学習の状況を把握しながら、それぞれのペースに合わせて指導に当たってきた。
- ・チャレンジテストの取り組みを継続し、結果を教務部で分析して、本校の児童の課題の把握に努めた。
- ・平成23年度より取り組んでいるスタートカリキュラムの内容を見直し、より児童の実態に合ったものにしてきた。また、近隣の幼稚園・保育園との連携を図り、新入児がスムーズに学校生活に慣れて学習集団としての機能を発揮できるようにしてきた。
- ・幼稚園との交流は、年に3回行い、幼稚園児の様子と併せ、幼稚園における指導方法を学ぶ機会となっている。
- ・中学校との連携は、管理職、元担任、生徒指導担当者を中心に、「生徒の授業の様子を見ること」「中学校の先生方を知ること」を目的に、中学校へ足を運ぶ機会を意識的に取っている。

取組の成果と課題等

○ 取組の成果

・授業改善の取組

(成果) 言語活動の充実をねらいとした校内研修を中心に、学力の向上を図る授業改善に努めてきた。また、学級毎に学力向上プランを作成して取り組むことで、見直しを持った指導を進めることができた。

・TTによる協力的指導の取組

(成果) TT 教諭によるきめ細かい指導により、特に下位層の児童の基礎的な学力の向上を図ることができた。それにより、学習に対する意欲の向上が見られている。

・朝学習の取組の継続

(成果) 取り組む内容を統一し、全学級が同一歩調で取り組むよう継続してきた。取組によって、読み・書き・計算の基礎的な力を高めることができています。

・チャレンジテストの継続

(成果) web システムを活用し、結果についてもタイムリーに提供できた。客観的な資料を提供することによって、本校児童の課題について共通理解を図ることができた。

・スタートカリキュラムの見直し、幼稚園・中学校との連携

(成果) 児童の実態に応じてスタートカリキュラムを調整しながら進めることにより、学校生活に円滑に移行することができた。また、幼稚園・中学校との連携の取組も、継続して取り組むことができた。

・家庭との連携の取組

(成果) 学級通信等で子供の学習の様子や漢字・計算などの状況を知らせ、家庭での取組の効果を訴えるなどの連携を図った。

○ 教育課程検証の方法

◎ 量的な検証方法

・時数の確保

～共通の形式の週案を用いることによって、週毎の時間割と時数を確実に集計できるようにしている。また、学年部会で進度や学習内容の打ち合わせを適宜行い、教務部による時数の集計も学期末に実施している。

◎ 質的な検証方法

・全国学力学習状況調査の結果について

～教務部で正答率の低い問題や全国・全道と比べて正答率の低い問題を抜き出して分析し、本校児童の課題について共通理解を図っている。その中で、当該学年だけでなく発達段階を踏まえた各学年の課題についても検討し、教育課程の見直しに結びつけていく方向で進めている。

・チャレンジテストの活用について

～解答と正答率をまとめた資料を各学年に提示し、サポート問題の取組を促してきた。また、誤答を大切にされた指導も繰り返し行ってきた。

・年間指導計画の見直し

～学年毎に、年間指導計画の一覧表に朱書きで記入し、次年度に向けて改善すべき点を明らかにし、教務部で整理する予定で進めている。

・授業の質的改善に向けて

～同じ指導案で研究授業を行いよりよい指導方法について協議したり、日々の授業の進め方や子供の変容について交流する機会を持つなどして、授業の質的改善に努めるようにしている。

◎ 年度末の学校評価・新年度準備委員会の会議の中で、教育課程の見直しについて重点的に検討する方向で取り組んでいる。また、保護者に向けても検討結果を情報として提供し、理解を得ながら進めていくようにする。